

キャラクター名
風間朱理

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン サラマンダー	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプション	モルフェウス	年齢	16	性別	男
覚醒	忘却	衝動	妄想	初期侵食率	35 %
出自	——	経験	永劫の別れ	邂逅	親友

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	3	1	3			7	行動値	16
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	2	0	0			2	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志		1	調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
神速の使い手	P	N		
???	P	N		
神宮ゆうり/タイタス	P	N		
及川深代	P 友情	N 憐憫		
神宮ゆうり (RB)	P 執着	N 不快感		
斎藤門	P 尊敬	N 不安		
扉	P 安心感	N 悔悟		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト・サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: コンセ。								
インフィニティウェポン	1	3	マイナー	-	自身	自動	-	
効果: 武器を作成(攻撃7+LV、ガード3)								
ダブルクリエイト	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器を2本作る								
ギガンティックモード	1	3	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	-	
効果: 範囲攻撃、武器は破壊								
マルチウェポン	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 両手に武器								
影走り	2	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: シナリオLV回、封鎖など無視で戦闘移動								
スピードスター	1	3	セット	至近	自身	自動	d口	
効果: 次の攻撃のダメージ+【行動値】								
炎の刃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻撃力+LV×2								
先手必勝	4	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 行動値+LV×3、侵蝕常時+4								
火の檻	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: エンゲージを封鎖								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

◆ハヌマーン/サラマンダー/モルフェウス◆
 風間朱理は〈炎舞〉の異名を持つ優秀なUGNチルドレンである。
 彼はUGNに育てられた生粋のエリートであるが、通常の人間と同じように学生としても学年を重ねている。
 性格は静かで温和なほうだが、昔はどちらかと言えば明るく活発なほうだった。
 気さくで親切、何かといろいろな人に声をかけており、つながりを持っている。

チルドレンとしては戦闘、特に前線での攻撃を担当する。
 生み出した二刀に炎をまとうせ、舞い踊るように一帯の敵を殲滅する姿から、〈炎舞〉の二つ名が付けられた。
 その太刀筋は速く正確。先陣を切る様子はまるでかがり火のようでもある。
 彼は彼のシンドロームでは扱うことができないはず能力を使いこなしているが、その事情を知るものは少なく、本人も語りたがらない。

支部の一室を借りて暮らしており、エージェントたちを家族のように思っている。
 特にチルドレンの教官をつとめる副支部長への信頼が厚く、彼にとっては親代わりのような存在である。

◆PCへの感情◆
 ○及川深代
 及川は彼にとって長い付き合いの友人だ。今も同じ高校に通っているし、支部でもよく顔を合わせる。
 ささいな出来事でも喋ってみたり、何か悩みがあれば相談したり。
 けれど、彼には大きな隠し事がある。
 及川は無理に詮索はしない。けれど、それも彼にとっては、大きな嘘であり、重荷だった。